

四国を満喫！

世界三大潮流「鳴門の渦潮」を 見に行く徳島・高知の旅



（観潮船「わんだーなると」）

昨年の九州旅行はおかげさまでご好評を頂きました。九州中央部から鹿児島への旅でした。九州の翌年は北海道方面と考えていたところに地震が2度起き、安全面が見通せませんでした。すると、「四国で四万十川より綺麗な水質の川があるらしい」という情報が飛び込んできました。「ええっ！そんな。四万十は日本三大清流なのに。」「はい。それで『奇跡の清流 仁淀川』というらしいです。水の色が青いっ！」

それは確かめに行かなければなりません。キーワードは「渦潮」「お遍路」「阿波踊り」それに「仁淀ブルー」です。

第1日目

行程

羽田空港⇒徳島阿波踊り空港⇒四国八十八ヵ所第1番「霊山寺」⇒昼食「笹乃庄」⇒

鳴門観光汽船「わんだーなると」乗船⇒阿波おどり会館⇒夕食「渭水苑」⇒ホテル（徳島）

【 羽田空港⇒徳島阿波踊り空港 】



(全日本空輸 ボーイング737-800)

四国はどうしても瀬戸内海を渡る必要がありますので、身体に負担が少なく便利と言うことを考えると飛行機で行った方が有利です。全日本空輸281便、8時45分発、徳島阿波踊り空港10時05分着ですから所要時間1時間20分。地上の待機やタキシングをしている時間を引くと、正味の飛行時間は一時間程度ですのであつという間です。

お客様の集合はご出発の1時間前です。使用機材はボーイングの中型双発機737-800になる予定です。「-800」の型式番号が示すとおり、数ある航空機の中でも一番多い機体数、生産期間の長さを誇ります。

737は現在737-MAX8 について問題が出ていますが737-800はエンジンや操作システムが異なっており、別機材です。

【 霊山寺(りょうぜんじ) 】 (徳島県鳴門市大麻町板東塚鼻)



〔 四国八十八ヵ所霊場、一番札所、霊山寺(りょうぜんじ)山門 〕

四国と言えば八十八ヵ所札所巡りが有名です。徳島に降り立って初めに一番札所にお参ります。靈山寺は「りょうぜんじ」と読みますが地元の人々は「一番さん」と親しく呼ぶのが一般的です。写真は山門の入り口で、見えている欄干の右側に池が広がり、まっすぐ歩いて行った先が本堂です。八十八ヵ所札所巡りはお参りするお寺の数が多いですから、今の時代ではどのように廻っても良いのでしょうかシティ旅行会ではやはり一番札所にご案内いたします。



山門の左にあるこの「発心の門」からお遍路さんたちの旅が始まります。今回の旅では一番靈山寺さんと三十一番竹林寺さんに伺いますが、古例に従ってこの「発心の門」から旅を始めましょう。



また、せっかく一番札所を訪れますので、ご希望の方に写真(左)のご朱印帖に靈山寺さんのご朱印を押して(写真右)贈呈いたします。ご不要な方にはおみやげに銘菓をお配りしますので、お申込みの時に、どちらかご選択ください。写真右のペーパーウェイト(土佐の青石)は差し上げられません(^)。三日目に仁淀川で拾えます。

【 伊月 笹乃庄 】(徳島県徳島市伊月町) 初日昼食



「笹乃庄」さんは 85 年の歴史を持つ料亭です。わざわざ伊月をかぶせるのは隣町の繁華街、秋田町と違い伊月町に入ったとたん静かな環境に変わるからです。



(八寸《オードブル》)



(鯛とマグロのお造り)



(ホタルイカ、さより、鳴門金時などの天ぷら)



(ぶり照り、味噌田楽)



(雲子《鰯の白子》ボン酢)



(ちらし寿司、鯛すまし汁)

食材は季節によって変わりますからイメージ写真になりますが、繊細で綺麗な料理です。料理長は三代目早野卓司さん、女将の息子さんです。アメリカで料理と経営学を学び、京都で修行しました。確かに京文化の盛り付けです。



畳にテーブル、立ち椅子の一番楽なセッティングでお食事がたのしめます。

【 鳴門観光汽船 「 わんだーなると 」 】 (徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛)



今回旅行の目玉の一つ、渦潮を見に行きます。世界三大潮流はカナダのセイモア海峡、イタリアのメッシーナ海峡と鳴門海峡です。この中でも鳴門の潮の速さが一番速くて世界一。「わんだーなると」(定員 395 名)は、その渦潮の中に乗り入れても安定を保てる構造の観潮船です。そうは言っても勿論揺れますが。



渦の中は明るい緑、アクアマリンという色でした。周りの色と違います。船の揺れの中、これだけ近くから見ると、不思議な現象を目の前にしていることを実感できます。渦が近づいてきたら、移動は控えて手すりにつかまっていてください。動くご自分で思うより大きく振り回されます。



チケットセンター横におみやげ店があります。藍染めは徳島の特産ですので小物から種類が豊富です。食品ではなんとと言ってもうどんや柚子が多いですね。

【 阿波おどり会館 】 (徳島県徳島市新町橋)



徳島と阿波踊りは切っても切れない熱狂的な関係です。みんな踊り好き。会館2階がステージになっており、踊りを見せていただいた後、振りも教わり、希望する方はステージで一緒に踊れます。手足の連携をとるのが苦労しますが、ほとんどの方が踊れるようになるはずです。現在の阿波踊りは両手を高く上げ、指先も揃えてすつと差し上げる粹な動作に変わってきています。足運びはお神輿と同じ要領でした。一步一步を大きく踏み出さないのがコツだと教わりました。

先日 NHK の「ぶらタモリ」でもこの阿波おどり会館を取材していました。会館と言うより一年中阿波踊りに密着できる一大センターという趣です。

1階がおみやげ店になっています。

【 渭水苑 】（徳島県徳島市沖浜東） 初日夕食



渭水苑は長いアプローチと 1,000 坪の日本庭園を持つ料亭です。創業から39年と比較的新しい料亭と言えます。もともとが和田さんという方の居住用個人住宅ですが、それにしては恐ろしく贅沢です。シティ旅行会の皆様のお好みも考えてホテルの夕食よりもこちらを選択いたしました。



お食事会場です。夜なので庭がちょっと見づらいのが残念です。渭水苑の「渭水」は水が集まる都という意味だそうです。水のように人も集まり、徳島で栄えるという命名と伺いました。



(先付け)



(お造り:二種盛り合わせ)



(焼き物:牛ヒレ)



(炊き合わせ:筍、菜の花、小海老他)



(ご飯)



(デザート:ラズベリーのゼリー寄せ)

食材は季節により変動いたしますので必ずこのメニューになるわけではありません。あらかじめご承知置き下さい。

【 JR ホテルクレメント徳島 】（徳島県徳島市寺島本町西）



「JR ホテルクレメント徳島」は JR が経営し、徳島駅に直結しています。客室250室を持ち、徳島県最大クラス。阿波踊りの期間中には全国から沢山の「連」が集まりますが、多くの連がこのホテルを利用します。



ゆったりした室内、アメニティも一揃い揃っています。ズボンプレスサーが備えられていました。

第2日目

行程	ホテル⇒大塚国際美術館⇒日本一の大杉⇒昼食、大政奉還が話し合われた料亭「三翠園」⇒ 五台山展望台、三十一番札所「竹林寺」⇒お土産・ご当地グルメ「ひろめ市場」⇒旅館（高知）
----	--

まずは朝食、今日の行動に備えて腹ごしらえです。



(朝食は1階レストランでビュッフェ形式です。)



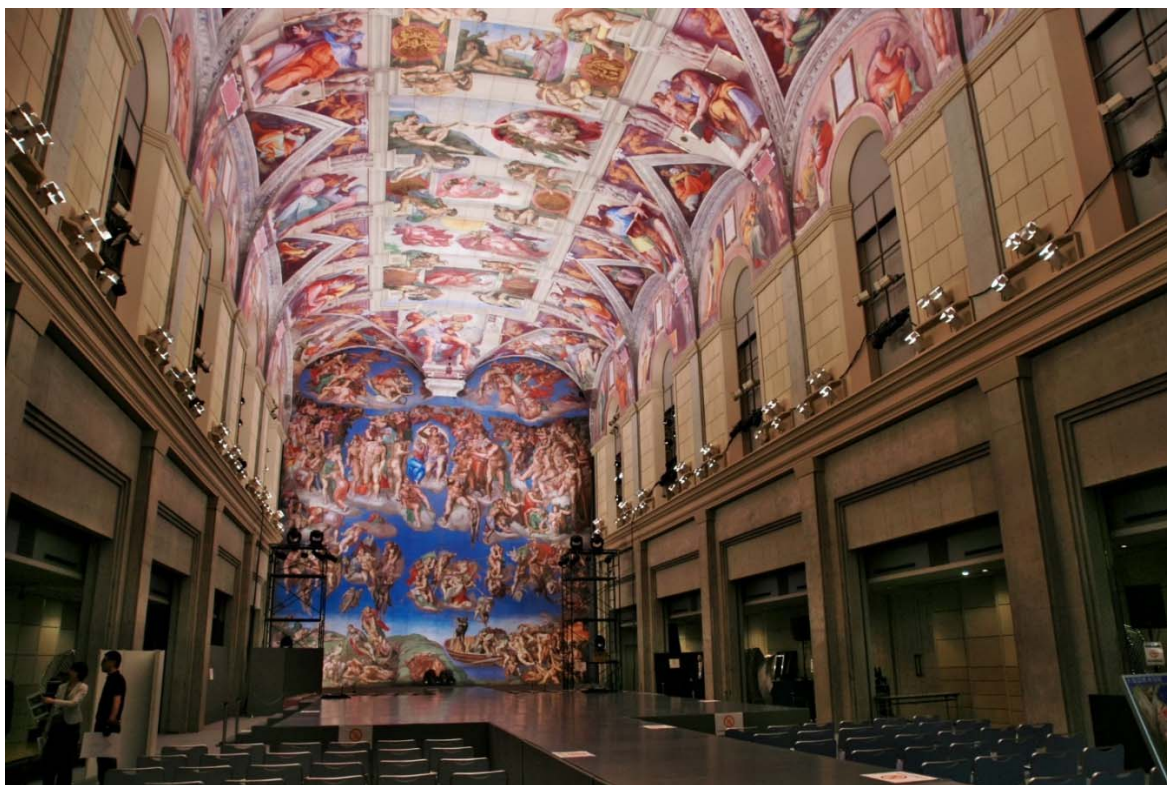
(和風でも洋風でも好きな組み合わせで。)

【 大塚国際美術館 】(徳島県鳴門市鳴門町鳴門公園)



大塚国際美術館の入り口です。ここから入って地下鉄新御茶ノ水駅にあるような長い長い上りエスカレーターに乗ると着いたところは地下3階です。ちょっと混乱します。美術館が山をくりぬいて作ってあるため地下が3階、地上2階の5層構造なんですね。山を登る労力を省くためにエスカレーターで美術館の一番下の階まで連れて行ってくれるという訳です。

この美術館はボンカレーなどでおなじみの大塚グループが創立75周年の記念事業として作ったもので、展示スペースは9,000坪と広大です。展示絵画は1,000余点といわれていますが、ここに展示されているのは大塚グループ内の大塚オーミ陶業さんが陶板に原寸大の絵画を複写したレプリカなんです。レプリカとは言え一つの美術館で世界各国の有名絵画が一通り見られるわけですから立ち寄る価値は大いにあります。



エスカレーターを降りた正面のシスティーナ・ホールです。昨年の紅白歌合戦で米津玄師が「Lemon」をここで歌いました。ろうそくを大量に使って幻想的でしたね。



(休憩:カフェ・ビンセント)



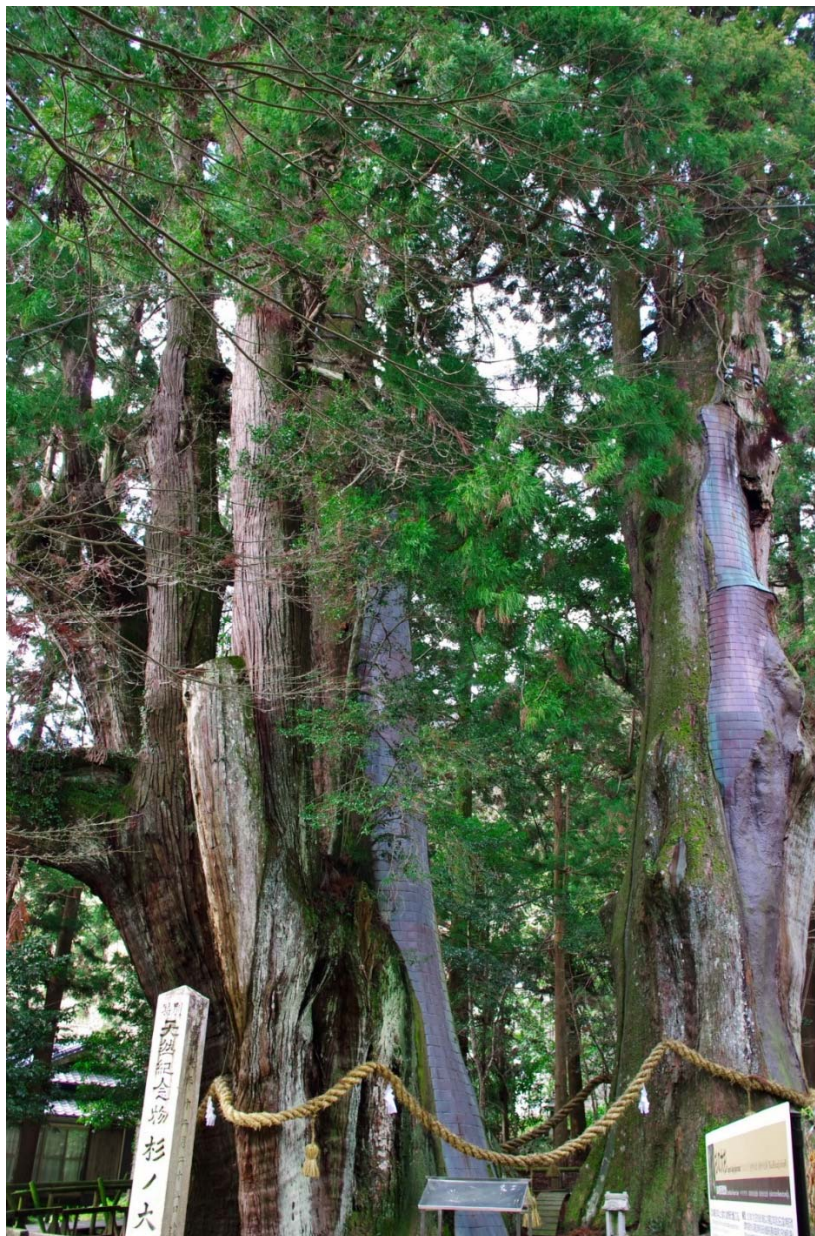
(お土産品:ミュージアムショップ)

地下三階にはカフェやおみやげショップなどがあります。9,000坪はとても広いですから休憩を取りながらごゆっくりご覧下さい。

名の知れたものならほとんどあると言って過言では無いと思えるほどです。それから徳島のおみやげはここが最後の購入ポイントです。

【 日本一の杉 】（高知県長岡郡大豊町杉）

高速を走っている内にバスは高知県に入ります。徳島から高知の間は、山とその隙間を走る川が作った細長い堆積平野の景色が続きます。「杉の大スギ」と呼ばれますが、はじめの「杉」は大豊町にある地名です。3,000年もたつと杉も地名になってしまったということになります。



こちらが樹齢3,000年といわれる日本一の大杉です。日本一というと屋久島の縄文杉より大きいのでしょうか？屋久島の方をご覧になった方は、ぜひ比べてみてください。こちらは二株の杉が根元で合わさっているということです。



大きさを見るために人物が入っている写真を載せます。こんなに小さく見えます。今年は皇紀2678年ですから3,000年というと神武天皇より昔になります。それもそのはず、この杉を植えたのは須佐之男命だという言い伝えがあります。



大杉を見て境内を下ってくると、美空ひばりの遺影碑(左)と歌碑(右)があります。なんで大豊町にあるのでしょうか？実は美空ひばりさんが9才で巡業中、この付近で乗っていたバスが崖を落ちて大怪我を負ったそうです。この地で1ヶ月半の養生をしたときに「私は日本一の歌手になりたい」と大杉に願掛けをしました。それで彼女は日本一の歌手になったんだと、これも土地の人々の自慢話です。白い箱にボタンが3つ並んでいます。押すと「川の流れのように」等3曲の歌が聞こえてきます。

【 三翠園 】（高知県高知市鷹庄町）



三翠園さんは山内家ゆかりの旅館で高知では知名度抜群です。調査に出向いたときも西武ライオンズがキャンプの宿舎として使っていました。入り口のしだれ梅が満開です。梅の左側にあるドーム型のものが源泉の噴出口です。ここで大政奉還の建議が行われたという歴史もあります。



お食事会場です。風格を感じさせる室内はさすが山内家ゆかりと思わせます。



食事を出していただいて考えてしまいました。今回の食事は全て有名料亭と旅館を使っています。それで昨日のお昼から魚料理が続いています。このあたりで肉料理を食べて頂きたいところです。そこで三翠園さんに無理をお願いしました。メニューを替えて肉料理としました。従ってこの写真の料理は食べません。

【 三十一番札所「竹林寺」 】（高知県高知市五台山）



高知県にある四国八十八ヵ所霊場では最も大きいのが竹林寺です。ご本尊は文殊菩薩で、文殊菩薩をご本尊とするのは八十八ヵ所中、竹林寺しかありません。お遍路さんは歌を詠んだり、旅の記録をとったり、スケッチをしている人もいます。



こちらは本堂の向かい側にある大師堂です。弘法大師の木像が置かれており、拝観できます。弘法大師は806年から810年まで竹林寺に滞在しました。建物は1644年に山内忠義によって建立されています。



五重塔は1980年、昭和55年に再建されたものです。五重塔の下に並んでいるお地蔵様の方は時代が感じられます。

【 ひろめ市場 】（高知県高知市帯屋町）



ひろめ市場は席が共用の屋台店60店舗が店を連ねる、お酒が飲めるフードコートです。土佐藩家老の深尾弘人（ふかおひろめ）の屋敷跡に建っていて土佐の文化、人情、をひろめようとする、ところから付いた名前だそうです。



飲食店の他、衣料品やお土産もの屋さんもあります。



土佐巻きが380円。これをつまみにお酒の店からお酒を買えば手軽に飲めるというのが人気の秘密です。



(真鯛の刺身:380円)



(うにイクラ丼:780円)



バスガイドさん一押しのおみやげ「土佐日記」、食べた後箱が重宝するそうです。箱の蓋の裏には紀貫之の歌「都へと思うものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり」(都に帰れて嬉しいと同時に悲しさもあるのは、私は今回の赴任で娘を亡くしてしまったのだったよなあ。) が書かれています。

【 城西館 】（高知県高知市上町）



城西館は高知市内、高知城の西側にある旅館です。夜は宿泊客が高知城を見ることが出来るよう、レーザービームを当ててライトアップしています。高知へ天皇陛下の御幸がある場合のほか、皇太子ご夫妻、私たちの旅行で時々一緒になる秋篠宮様をはじめ皇族方のご定宿になっています。皇室の皆様のお部屋は7階の廊下側から坪庭が見えるお部屋です。



城西館では、夕食に出す鰹のタタキは旅館内で作っていますので早くチェックインできればご覧頂ける鰹のタタキ調理場面です。藁で焼くのは瞬時に高温を出せるのが藁だからだそうです、しかも地場のものが一番良いそうです。調理台とカメラの間にはガラスが入っていますが、焼き始めるとこちら側にも熱が伝わって来て、怖いぐらいです。



(食材は季節により変動しますので写真はイメージです。)

夕食の一部です。先ほどのかつおのタタキも勿論出てきます。



城西館はオリジナルのお土産が豊富です。こちらは「おもてなしセレクション」という土佐のお土産コンテストで外国人特別賞に輝きました。中にダシが良く出る宗田かつおの鰹節が入っています。ご家庭でお使いの醤油を入れてつけ込むと、ダシ醤油が出来るという「だしが良くでる宗田節」です。



上の段がラスク、中段と下段がバームクーヘンです。それぞれに沢渡茶(さわたりちゃ)と銀不老(ぎんぶろう)の味があります。仁淀川流域でとれるお茶が沢渡茶、銀不老は地元特産の黒豆の風味です。



「黒糖かりんとう」銀不老風味です。日本航空のビジネスクラス用のお菓子として採用されています。オリジナルお土産。細くて短い上品なかりんとうです。



城西館の出口を出て、そのまま右に向かって50メートルぐらいのところに坂本龍馬の生誕地があります。碑はこの写真で見るとおり小さな物ですが、数分で歩けますしお散歩の時にご覧になってはいかがでしょうか。



碑の向かい側にはこのようなベンチと説明の掲示板があります。

第3日目

行程

旅館⇒全国水質ランキング 1 位「仁淀川」、安居溪谷⇒昼食、土佐料理「司高知本店」⇒
坂本龍馬記念館⇒高知県特産品「かつお船」⇒高知坂本龍馬空港⇒羽田空港

【 仁淀川、安居溪谷 】（高知県吾川郡仁淀川町）

仁淀川上流域の安居溪谷まで遡上していきます。この日は、途中道幅がせばまりすれ違いも難しい難所もある為大型バスは使えません。そこで中型バス2台に分乗して行程を進めていきます。



こちらは安居溪谷の中程、乙女河原というところですが、今回旅行での仁淀川観光では最終目的地です。バス駐車場、宝来荘からご希望の方について舗装道路を使って徒歩で乙女河原までご案内します。途中、河原に降りられる道が何カ所かありますが、手すりの無い狭い階段など危険が多いため降りないでください。調査中もカメラ2台を抱えて前進できなくなり、戻って逃げ道を使いましたが、逃げ道も危険で怖い思いをしました。乙女河原は大石に近づかず、足下に注意をすれば安全です。ペーパーウエイトにした「土佐の青石」はここで拾いました。澄み切った水が緑色に見えます。ここからカメラを右に振っていくと次の写真のように水深が深くなって、色が濃くなります。



この色は夏に向かって行くに従って青に変わっていきます。「仁淀ブルー」と言われる色で、川の水の含有物のせいではなく、あまりに水質が良いので青く見えるそうです。不思議ですね。ぜひこの不思議な色をご覧ください。



仁淀川の魅力は上流部だけにあるわけではありません。山に分け入ろうとするポイント。沈下橋が見えます。道は川沿いに進みますので車窓をご覧ください。NHKの「新日本紀行」のテーマ曲が聞こえてきそうな風景です。



沈下橋は、高知県内では多く見られます。ある意味日本の原風景です。



山を登るに従って溪谷の美しさが際立ちます。それにしても透明度の高い水です。車窓からお楽しみ下さい。

【 司 本店 】（高知県高知市はりまや町） 3日目昼食



「司 本店」さんは高知の中心地「はりまや町」にある料亭です。創業は大正6年、西暦1917年ですから創業102年目に当たります。土佐の海・山・川の幸を土佐人の感性で提供してきたという、こだわりようです。



（食材は季節により変動しますので写真はイメージです。）

はりまや橋近くのお店ですので、その名も「かんざし膳」です。



(白身魚のフライ)



(あんかけ茶碗蒸し)



【 高知県立坂本龍馬記念館 】 (高知県高知市浦戸城山)



高知県立坂本龍馬記念館は、坂本龍馬の業績を紹介する施設として1991年に開館し、去年新館建設と本館の改装を経て再オープンしました。ですからぴかぴかです。



内部にはミニ・シアターがあって設備も整っています。土佐での坂本龍馬の人気はものすごく、東京から行くちょっとびっくりしてしまう面もあります。



一通り見終わると出口のところに写真の龍馬像があり握手が出来ます。みんなが握手するので手のひらだけがかたかたになっていました。

【 高知名産センター かつお船 】（高知県高知市仁井田）



高知名産の海産物や農産物等の、本当に高知の物産品が集まった名産センターです。手では持ち帰れない物は宅配便を利用できます。



例えば土佐の柑橘、「文旦」。一袋が一抱えあります。ひろめ市場でジュースにして飲みましたが、美味しいジュースでした。10キロは持って帰れませんから絶対宅配便です。

【 高知坂本龍馬空港⇒羽田空港 】



復路は高知坂本龍馬空港から羽田空港へ。日本航空496便16:30発、羽田到着予定は17:45着予定です。使用機材は往路と同じボーイング737-800の予定です。お疲れ様でした。ご自宅まで気をつけてお帰り下さい。

東京シティの国内旅行は、「良い宿・良いお湯・良い食事」を目指して毎年開催しております。

訪問地の有名店、有名旅館、有名ホテルを厳選して質の高いご旅行を提供します。特に今回の旅行は徳島・高知の有名料亭を揃えました。

皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

《出発日について》 各店舗のご出発日は下記の通りです。

出 発 日	店 舗 名
5月22日(水)	赤羽支店、神楽坂支店
5月27日(月)	押上支店、京成小岩支店、野方支店、玉川支店、新柴又支店
6月 3日(月)	蔵前支店、堀切支店、浦安支店
6月 5日(水)	小山支店、深川支店、亀有支店、京橋支店、志村支店
6月10日(月)	本店、東王子支店、菊川支店、豪徳寺支店
6月13日(木)	秋葉原支店、池袋本町支店、江戸川橋支店
6月17日(月)	新小岩支店、砂町支店、日本橋支店、中野支店
7月3日(水)	東四つ木支店、高田馬場支店、石神井支店、牛込柳町支店

*ご出発日のご都合の悪い場合は、他店舗の出発日を選ぶこともできます。

募集人員 : 400名(先着)

旅行代金 : 129,000円(2名一室の場合)

*1名一室の場合の追加料金は25,000円です。

【 調査・調整 】

東京シティ信用金庫 理事長 小池 誠一



東京シティ信用金庫 理事地域戦略統轄本部長 渡邊 正之



(坂本龍馬と握手しています)

名鉄観光サービス(株)東京中央支店 支店長 比留間 啓介



名鉄観光サービス(株)東京中央支店 営業係長 東崎 英行



(坂本龍馬と握手しています)



<http://www.shinkin.co.jp/to-city/>